

インターバンクの声（2016年8月12日）

昨日、国民の祝日として新たに制定された「山の日」のため東京市場は休場となり、アジア時間の円相場は101円台前半から中盤での推移が続いた。その後、ニューヨーク市場中盤になると、ドルが円やユーロに対して堅調になり始めた。前日に値下がりしていた原油価格やNYダウやナスダックが堅調となり、さらには低下していた米国債券利回りも上昇に転じたため、円相場は101円台前半から102円台近辺まで円売り・ドル買いが進んだ。先月29日の第2・四半期国内総生産(GDP)速報値の結果が大幅に市場の予想を下回って以降、7月の雇用統計、4-6月期の労働生産性といった指標が堅調な結果と悪化する結果が交互に発表され、米連邦準備理事会(FRB)の年内利上げ観測も再浮上と希薄化する見方が交錯した。しかし、サンフランシスコ地区連銀のウィリアムズ総裁が、労働市場の改善やインフレ率が上向く可能性を踏まえ、年内の利上げを実施する必要があるとした米有力紙のインタビューでの発言が伝わり、昨日は再び利上げ観測が強まった。8月26日のジャクソンホールでの経済フォーラムまでは101円から103円のレンジを想定しておけば良さそうだが、市場が怖がっているのは依然円高のようだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。